

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

1. 教育学部	2
2. 大学院人文社会科学研究部(文学系)	3
3. 大学院人文社会科学研究部(法学系)	4
4. 大学院先端科学研究部	5
5. 大学院生命科学研究部(医学系)	7
6. 大学院生命科学研究部(薬学系)	8
7. 大学院生命科学研究部(保健学系)	9
8. 医学部附属病院	10
9. 発生医学研究所・エイズ学研究センター・ 生命資源研究・支援センター	12
10. パルスパワー科学研究所	14
11. くまもと水循環・減災研究教育センター	15
12. 先進マグネシウム国際研究センター	17
13. グローバル教育カレッジ	18
14. 総合情報統括センター	20
15. 熊本創生推進機構	21

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(教育学部)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
教育学部の専門科目である「家庭経営学」「家族関係学」「道德教育の研究」「人権教育論」「発達心理学特殊講義 II」などでは、男女共同参画やJGBTQなどダイバーシティに関連した内容が扱われている。また教養教育科目として「女性のライフコースとキャリア」のオーガナイザーを教育学部教員が行っている。 教育学部附属中学校では、「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」のプロジェクトを利用し、ワークライフバランスや女性研究者のキャリア形成について話を聞く、サテライトセミナーを2回実施した。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
学生の研究では、「女性活躍推進や男女共同参画の視点に立った震災対応」をテーマとした卒業研究が行われた。 教員の研究では、「地域の男女共同参画」や「インドにおける障害者とジェンダー」をテーマとした研究が行われ、研究成果は熊本大学教育学部紀要に掲載された。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
熊本大学教育学部附属特別支援学校では、人権教育に関する職員研修会において、LGBTに関する講演会を実施した。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
平成30年度の育児休業取得者は5名(附属特別支援学校教員2名,附属小学校2名,教育学部事務課1名),産休中の教職員は2名(附属特別支援学校1名,附属幼稚園1名)である。附属特別支援学校では、八幡彩子校長(教育学部教授)が熊本県の“よかボス”宣言に登録し、教職員の仕事や結婚・子育てや介護などを応援することを、学内外に示している。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名(大学院人文社会科学部 (文学系))

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
2年次後期に授業として「ジェンダー入門」(木曜2限)を開講し、男女共同参画の必要性を学生に周知させることを行っている。 (http://syllabus.kumamoto-u.ac.jp/pub/syllabus.html?locale=ja&sylocale=&nendo=2018&jikanwari_shozokucd=05&jikanwaricd=96120&nendoS=2018&jikanwari_shozokucdS=&kaikoS=&kamokuS=ジェンダー入門&jikanwaricdS=&tanto_kyoinS=&keywordS=&jitumuS=&limitS=100)
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
それぞれの部署で努力している。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
授業「ジェンダー入門」で男女共同参画に積極的な人材を育てることを目指す。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名(大学院人文社会科学研究所(法学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
前期・後期において職業選択に関するキャリア科目を開講。 学生が種々の目的で集まることのできる「リフレッシュルーム」を本年も保持。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
教員公募に出産・育児・介護に専念した期間の付記、男女共同参画を推進していることの記載を保持。 熊本大学男女共同参画推進フォーラム(研修会)の周知および参加。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名(先端科学研究部)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女が共に学び合うことを可能とする就学環境を整備する。

平成 21 年度から「サイエンス・プロジェクト for 九州ガールズ」として開始した女子中高校生 の理系進路選択支援活動は、平成 29 年度より「はばたけ！熊本サイエンスガールズ」として実施している。女子中高生の理系進路選択支援事業に関して、理学系教職員が企画運営に関係するとともに、大学院自然科学教育部男女共同参画推進委員会からの依頼に応じて理学部、工学部及び自然科学教育部・研究科の女子大学生・大学院生が各種企画に協力している。特に、理系ロールモデルについての講演会は、理系学部進学希望を持つ中高校生が具体的な将来像を知ることが出来る機会として効果を上げている。また、オープンキャンパスに合わせて開かれる進学相談会は、高校生の興味に応じて現役学生と個別に相談する機会として多くの参加者を得ている。これら行事の参加者からは、極めて高い評価を得ており、理系学部に進学する女子高校生及び大学院に進学する女子学生の割合を増やし、将来の女性教員・研究者増加につなげるという意味で、優れた取組と考えている。大学院自然科学教育部としての取組ではあるが、女性教員と大学院生、学部学生との懇談会である Women in Science の開催を継続してきた。

目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。

大学院先端科学研究部での取り組みであるが、平成 22 年度に科学技術振興調整費(平成 23 年度より科学技術戦略推進費) 女性研究者養成システム改革加速「バッファリングによる女性研究者養成の加速」に採択され活動を続け、平成 27 年度末までに 10 名の新規女性教員を採用してきた。採用した女性研究者には研究費、研究スペース等の面での支援を行い、メンター教員の支援のもと、自立した環境での活発な研究を支援した。平成 28 年以降も、新規採用教員のみならずすべての女性教員に対して、論文投稿経費や論文校閲経費等の支援を継続している。事業終了後の平成 27 年度以降も、着任 2 年目および 3 年目は年間 100 万円の研究費を支給してきた。加えて、全女性教員を対象に、スキルアップ経費と称して、論文校閲費や会議参加費などの支援を行っている。また、新規養成女性研究者には 3 名のメンター教員をつけて支援を行う体制を構築し、メンター会議での情報交換を行った。

目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。

大学院先端科学研究部での取り組みであるが、平成 29 年度から平成 33 年度までの 5 年の計画として策定された「第 2 期熊本大学男女共同参画推進基本計画」に掲げる事項の推進を図るために、平成 22 年に採択された科学振興調整費事業「バッファリングによる女性研究者養成の加速」事業では、事業終了後の計画を含めた形で、具体的な目的・計画をホームページで公開している。

目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。

大学院先端科学研究部での状況であるが、平成 22 年度から平成 27 年度までに「バッファリングによる女性研究者養成の加速」プログラムにおける年度計画に基づき、職位を問わない女性限定の公募を実施し、平成 27 年度末までに 10 名の女性教員を新規に採用した。この間に新規に雇用した女性教員のうち 3 名が、着任後に出産し、現在も育児をしながら教育研究活動を継続している。

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念（あるいは従事）した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。（詳細は、ホームページを御覧ください。<http://gender.kumamoto-u.ac.jp/>） 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(生命科学研究部(医学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・医学科での特別臨床実習においてグループ分けを行う際、特別に偏りがないう配慮している。・全学年、男女とも個人毎にロッカーを割り当ており、女子更衣室についても確保している。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・医学教育部において、柴三郎プログラムに女性柴三郎コースを設定し、保育園への優先的入園、病児保育などの子育て支援や、出産・育児休学中もeラーニングで勉学の継続、メンターによる研究指導などを行う支援制度を設けている。・女性教員、女子学生による、ランチ会が4回開催されており、意見交換の場となっている。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">・生命科学研究部では、卓越研究院事業およびテニユアトラック事業により本学大学院先導機構に雇用し3～5年後の審査を経て、本研究部で雇用するシステムを構築しており、現在、女性テニユア准教授1名、ならびに女性テニユアトラック助教1名を本システムで雇用しているところである。・女性職員用にロッカーを配備し、更衣室として利用できるスペースを確保している。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">・教員公募を行う際には必ず「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細はホームページをご覧ください。http://gender.kumamoto-u.ac.jp/) また、選考にあたっては、男女共同参画社会基本法に則り、適性に行います。」を記載している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(大学院生命科学研究部(薬学系))

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
薬学部の男女比は約1:1で、男女とも就職率は100%なのでキャリア形成の意識は十分高いと言える(基本方針1)。また、積極的に女性研究者の講演会を開催する機会を設けている(基本方針1)。創薬・生命薬科学科(4年制)の学生は男女とも100%が大学院博士前期課程に進学しているため、教育の機会均等は既に達成されているといえる(基本方針2)。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
薬学部では3年生から研究室配属になるが、研究室ごとに男女の定員はないので、既に男女平等な研究環境であるといえる(基本方針1, 2, 3)。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
「かかりつけ薬剤師」として地域に根ざした薬剤師を目指す学生も増えている。この傾向は今後も増加すると思われる(基本方針1)。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
積極的に女性研究者の講演会を開催する機会を設けている(基本方針4)。教員公募の際には、女性を積極的に雇用する旨を公募要領に記載している(基本方針1)。セクシャル・ハラスメント相談員のリストを掲示板に示し、各種ハラスメントに関する相談に対応しやすいようにしている(基本方針5)。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(大学院生命科学研究部(保健学系))

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
平成30年度のテーマをパワハラ防止として、厚生労働省より配信されている「あかるい職場応援団 動画で学ぶパワハラ」の教材を活用し、学生アルバイトを含めた教職員を対象としたeラーニング形式の研修を11月1日から実施中。【資料1】 併せて、研修効果を高めるため、熊本市ホームページ掲載の各種ハンドブックについても紹介して閲覧を促している。【資料2】【資料3】
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(医学部附属病院)

<p>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</p>
<p> </p>
<p>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</p>
<p> </p>
<p>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</p>
<p> </p>
<p>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</p>
<p>○ワーク・ライフ・バランスの観点に立つ環境の整備 (1) 病児保育室運営委員会による ①病児保育室の利便性の向上 ・病児保育開始時間の30分繰り上げ、保育料の値下げ(1日3,000円→2,000円、半日2,000円→1,500円) ○ジェンダーの視点による学内の調査・分析、統計及び情報の提供 (1) 附属病院男女共同参画推進委員会による ① 男女共同参画コーディネーターの会の開催(30.11.1、11.6) ・本院の女性医師支援の取組ほか ② 育児介護支援情報会の開催(30.11.20) ・本学の育児支援・介護支援制度の説明ほか ③ 各診療科への医師アンケートの実施 ・医師の働き方改革への意見、出産を経験した女性医師の出産後の勤務状況 (2) 女性職員支援WGによる ①女性職員への育児支援に係るアンケートの実施 ・院内保育所、病児保育所及び学童保育に関する意見</p>

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

(記入欄)

(1) 附属病院男女共同参画推進委員会と熊本県地域医療支援機構の共同による

①クローバーセミナーの開催(30.12.18)

・医療人の働き方改革講演ほか

(2) 熊本県と合同で

①熊本県女性医師キャリア支援連絡会議の開催(31.1.17)

・大学病院、熊本県及び県医師会などの団体と女性医師支援に係る取組状況及び今後の方向性について議論した。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(発生医学研究所)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、独自の研究支援事業を行っており、『育児・介護期間中の研究支援』事業においては対象者を大学院生にまで拡大し、育児・介護と就学を両立できる環境の整備に取り組んでいる。平成30年度は公募を行ったが、大学院生の応募者がいなかった。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、2008年7月29日に男女共同参画推進に係る事業実施に関する申し合わせを定めて、工夫及び改善を重ねながら、「男女共同参画推進事業」を継続して行っている。平成30年度は、前期公募(2018年9月28日(金)締切)及び後期公募(2018年12月27日(木)締切)の計2回の公募を実施し、男女延べ9名の申請者に「育児・介護期間中の研究支援」に関する助成を行った。発生医学研究所 HP において、上記の「男女共同参画推進事業」の公募・採択情報のほか、女性教職員の割合(統計データ)及び授乳室等設備の最新情報を掲載している(http://www.imeg.kumamoto-u.ac.jp/danjo/)。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所では、毎年、八代中学からの研究所見学を受け入れており、本年度も2018年6月16日(金)に実施した。当日は若手教員(男性教員1名、女性教員1名)による講義も行った。熊本大学医学部主催の学園祭『本九祭』において、発生医学研究所では、展示発表や研究室ツアーを行った(2018年9月16日(日))。その際に、男性教員も女性教員も積極的に参加し、来場者の方への研究紹介や進路相談等にも対応した。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">発生医学研究所が中心となり、年に1~2回のペースで近場の人たちで緩やかな繋がりを維持し、問題や悩み事を共有することを目的に集まっている。本荘地区の研究に関わる教職員及び学生が参加し、悩み事の相談や情報交換を行っている。今年度もランチ会(2018年6月20日(水))を実施した。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">男女共に休憩できるスペースを確保するため、発生医学研究所内に新たに『休憩室』の設置を行った。ベッド2台を常設しており、一時的な体調不良時に使用できる。また、以前より設置していた『授乳室』に新たにロッカー等も配備し、更衣室としても利用できるように変更した。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名(生命資源研究・支援センター)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
男女の卒業生が大学に訪問し、キャリアパスについて助言を受けている。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・個々の状況に合わせた研究計画の立案と助言をおこなっている。・関係学会及び研究会などへの参加を促進している
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">・次世代リーダー育成プログラムである HIGO プログラムへの参加を積極的に進めている。(H30 年度: 1名)・地域貢献の目的で主催している体験講座で、男女共に講師を務めるようにしている。また、参加者に熊本大学の男女共同参画への取り組みを紹介している。・放射線に関する基礎知識啓発のための講師などへの参加を促進している。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">・教育体制や人材育成に積極的に取り組み、男女の区別なく活躍できる環境の整備に努めている。・放射線安全管理に関する国家資格等が取得できるような職場での支援体制を促進している。・育児介護休業を取得しやすい環境づくりを行なっている。(H30 年度育児休暇取得: 1名)・妊婦の方などが臥床できる休憩室を設置し運用している。
その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
<ul style="list-style-type: none">・男女共に、ライフスタイルや社会構造の変化に対する情報を共有することにより協力的な関係を構築することに努めている。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局名(パルスパワー科学研究所)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
研究所主催の国際シンポジウムにおいて、世界的に著名な女性研究者や優秀な業績を有する本学女性教員をお招きし世界トップレベルの研究内容をご講演いただくなど、研究・教育環境においてジェンダーレスであることを積極的に啓発している。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
当研究所が実施している研究プロジェクト「パルスパワー先端国際共同研究推進プロジェクト」および「新たな共同利用・共同研究体制の充実」において継続して女性4名(特別研究員1名、事務補佐員3名)を採用するなど、積極的に女性の採用を行っています。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
国際的に活躍できる研究者を育成するために、男女問わずに研究者や学生の海外渡航を支援し、国際会議参加や国際共同研究実施のための派遣を推進している。またこの活動は、国際社会では男女が分け隔て無く活躍し、社会貢献していることを見聞してもらえる効果をもたらしている。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
熊本大学が実施している「育児・介護に関わる研究支援」事業や「病児保育支援事業」への申請を積極的にサポートし、子育て・介護世帯研究者の研究継続に配慮している。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体の取組について

部局等名(くまもと水循環・減災研究教育センター)

目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・くまもと水循環・減災研究教育センターの外部施設である合津マリンステーションや益城ラボでは、そこを利用する学内外の学生に対して、浴室、トイレ、寝室等施設面において男女による差別がないよう配慮されている。また長靴、雨合羽などを含めた実習用設備品においても男女による差別がないように配備され、利用目的が適正かつ安全に遂行されている。・学生実習や市民講座・観察会は、野外や十分な設備のない場所で行われることが多いが、事前に更衣室やトイレに配慮するなど、男女共同参画に向けた活動が適切に行われている。・所属教員の指導する女性大学院生は11名と多い。
目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
<ul style="list-style-type: none">・教員公募にあたっては、募集要項に男女共同参画を推進していることを明記し、研究活動への機会均等に配慮している。研究補助員・事務員の募集についても、可能な限り、女性を優先するように配慮している。・現在、任期付ではあるが外国籍女性教授1名が所属している。女性かつ外国籍ということもあり、センターの予算で秘書1名を雇用し、便宜を図っている。
目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
<ul style="list-style-type: none">・市民講座等を通して、男女がともに活躍できる地域社会の実現を目指している。・2019年9月18～21日に本センターが開催する国際会議には、国内外から多くの女性研究者・女子学生が参加する。
目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
<ul style="list-style-type: none">・センターでは、研究補助員、事務員として、多くの女性(計10人)が雇用されているが、採用においては育児・介護等が不利にならないように配慮し、また、雇用後の勤務についても育児・介護が可能な勤務態勢を取っている。

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

・合津マリンステーションでは、理系進学を推進するためのプロジェクトの一環として、大津高校・熊本第二高校の臨海実習の他、県内の高校の生物部・科学部の研修、女子中高生の理系進路選択支援プログラムにイベントなどが頻繁に行われており、多くの女子生徒が参加している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(先進マグネシウム国際研究センター)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
平成 29 年 10 月から女性の外国人博士研究員を 2 年間の予定で雇用している。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
男女共同参画推進に関する啓発活動については、学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に出席するよう努力している。今年度は、男女共同参画推進に関する学内外で開催されるセミナーやシンポジウムへ積極的に参加して高い意識を常にもつよう努力し、全学的な男女共同参画推進フォーラムへは、セミナーへの参加をメールや口頭で促している。 また、平成 30 年 4 月には男女共同参画推進室との共催で、無機材料総合研究所代表の陶山容子先生(島根大学 元教授)をお招きし、男女共同参画に関する講演会(MRC セミナー)「研究とダイバーシティ」を主催した。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
本センター独自の取組はないが、全学で託児ルームの開設(予定)など、女性の活躍を推進する環境整備がなされている。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
教員公募を行う際には必ず「男女を問わず、出産、育児、介護に専念(あるいは従事)した期間について考慮することを希望される場合は、その旨付記してください。」や「熊本大学は、男女共同参画を推進しています。(詳細は、ホームページを御覧ください。 http://gender.kumamoto-u.ac.jp/) 選考にあたっては、男女共同参画社会基本法にのっとり、適正に行います。」を記載している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(グローバル教育カレッジ)

<p>目標1:男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。</p>
<p>グローバル教育カレッジでの授業は、常に社会の多様性に焦点を当て、文化・国籍の他に、世代やジェンダー等の共存・共同参画を教えている。</p>
<p>目標2:男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。</p>
<p>目標3:男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。</p> <p>●2018年11月7日に「熊本からマラウィへ～多文化理解とコミュニティ～Global Education Interactive Seminar Series」というタイトルで熊本大学卒業生辻望実さんによるアフリカのマラウィの女性や少女達の実態状況をテーマとした公開講演会を主催した。オーディエンスは熊本大学の学生と教職員や地域住民等21人だった。</p> <p>●グローバルリーダーコース学生(以下GLC学生)を対象とした課外活動(GLC Foundation Seminar)内で、ODA出前講座を実施し、外務省国際協力局民間援助連携室の女性主査より国際協力とグローバル人材、外務省における女性のキャリアについて等を講演いただいた。また、同活動内で熊本市議会より緒方夕佳議員を招き、グローバルな視野と女性としての視野を持ってローカルに活動することについて講演いただいた。これらの講演を通して、GLC学生が講演者とインタラクティブにディスカッションをし国際化社会における男女共同参画について学習した。更に、スペイン・バリアドリッド大学において化学工学と環境技術を専門とする教授に講演いただき、グローバル社会における女性研究者としてのキャリアについて講演いただいた。</p> <p>後学期の課外活動では、地域における人口高齢化についてGLC学生がグループに分かれリサーチを行ったが、社会福祉法人熊本市社会福祉協議会の協力のもと、高齢者疑似体験等を通して、少子高齢化社会について学習した。</p>
<p>目標4:次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。</p>

その他:目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。

熊本大学 2019 年度サマープログラム及びスプリングプログラム委託業務の企画競争において、男女共同参画社会基本法に則り、選考を適正に行っている。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(総合情報統括センター)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
当部局は教育担当部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標1の活動を側面から支援している。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
研究を担う教員は、当部局では男性のみであり、上記に係る取り組みは実施していない。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
当部局は、本学の人材育成を担う部局ではないことから、直接的に上記に係る取り組みは実施していない。但し、全学情報ネットワークを管理する立場から、全学情報基盤、情報サービスを安定稼働させることを通じて、目標3の活動を側面から支援している。
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
当部局では、男女共同参画推進委員会が主催する各種講演会やセミナー等について、具体的な数値目標を定めて、積極的に参加する取り組みを実施している。

熊本大学男女共同参画推進基本計画に係る具体的な取組について

部局等名(熊本創生推進機構)

目標1: 男女共同参画社会の実現に貢献する教育内容を充実させ、男女がともに学び合うことを可能とする就学環境を整備する。
目標2: 男女がともに個性と創造性のある研究を推進するための研究環境を整備する。
研究者が育児をしながら研究等に専念できるよう、男女共同参画推進室と本機構が協力してルポゼ2階に託児ルームの設置に取り組み、平成31年度からの運用が可能となった。
目標3: 男女共同参画社会実現の原動力となる人材を育成し、地域及び国際社会への貢献活動を推進する。
平成30年度 熊本大学熊本創生推進機構 政策フォーラム『小さな命をつなぐ社会であるために』を開催し、思いがけない妊娠に悩む女性の支援、赤ちゃんポストの今後、特別養子縁組など様々な養子制度や親権の取扱の文化的な制約と挑戦、児童虐待の防止など、幅広く子どもが幸せに生まれ、生きることができる社会をどう作るのかについて、政策や行政、そして民間と補完し合う仕組みについて討論した。(平成30年10月6日開催)
目標4: 次世代育成支援と女性の活躍推進を可能とする職場環境を醸成する。
育児中の研究コーディネーター(URA)の勤務にあたって、育児時間及び育児短時間取得するよう勧め、また、業務負荷がかからないようワークシェアリングを行い、長時間労働にならないよう配慮した。
その他: 目標1から目標4までのほか、男女共同参画推進に取り組んでいること。
・本機構安部准教授が市民団体「男女共同参画と災害・復興ネットワーク」のアドバイザー(ボランティア)に就任し、活動予定。